

学校编码: 10384

分类号 \_\_\_\_\_ 密级 \_\_\_\_\_

学 号: 12220101152571

UDC \_\_\_\_\_

# 厦 门 大 学

## 硕 士 学 位 论 文

### 试论《日本致富宝鉴》中井原西鹤的等级观 ——以“士农工商”为中心

『日本永代蔵』における井原西鶴の身分観念

—「士農工商」を中心に

郑 丹

指导教师姓名: 吴素兰 副教授

专业名称: 日语语言文学

论文提交日期: 2013 年 4 月

论文答辩日期: 2013 年 月

学位授予日期: 2013 年 月

答辩委员会主席: \_\_\_\_\_

评 阅 人: \_\_\_\_\_

2013 年 4 月

试论《日本致富宝鉴》中井原西鹤的等级观——以「士农工商」为中心

郑丹

指导教师: 吴素兰 副教授

厦门大学

厦门大学博硕士学位论文摘要库



## 厦门大学学位论文原创性声明

本人呈交的学位论文是本人在导师指导下,独立完成的研究成果。本人在论文写作中参考其他个人或集体已经发表的研究成果,均在文中以适当方式明确标明,并符合法律规范和《厦门大学研究生学术活动规范(试行)》。

另外,该学位论文为( )课题(组)的研究成果,获得( )课题(组)经费或实验室的资助,在( )实验室完成。(请在以上括号内填写课题或课题组负责人或实验室名称,未有此项声明内容的,可以不作特别声明。)

声明人(签名):

年 月 日



## 厦门大学学位论文著作权使用声明

本人同意厦门大学根据《中华人民共和国学位条例暂行实施办法》等规定保留和使用此学位论文，并向主管部门或其指定机构送交学位论文（包括纸质版和电子版），允许学位论文进入厦门大学图书馆及其数据库被查阅、借阅。本人同意厦门大学将学位论文加入全国博士、硕士学位论文共建单位数据库进行检索，将学位论文的标题和摘要汇编出版，采用影印、缩印或者其它方式合理复制学位论文。

本学位论文属于：

1. 经厦门大学保密委员会审查核定的保密学位论文，  
于 年 月 日解密，解密后适用上述授权。

2. 不保密，适用上述授权。

（请在以上相应括号内打“√”或填上相应内容。保密学位论文应是已经厦门大学保密委员会审定过的学位论文，未经厦门大学保密委员会审定的学位论文均为公开学位论文。此声明栏不填写的，默认为公开学位论文，均适用上述授权。）

声明人（签名）：

年 月 日



## 要 旨

『日本永代蔵』は井原西鶴の町人物の第一作であり、1688年刊行されたものである。全書は6巻合計30章の短編からなり、各階級の人々の生活様相や諸国の風俗などが描かれ、特に町人の立身と淪落は説話の中心となる。西鶴は『永代蔵』の中で、貴族からえた非人まで、社会各階級の人々を独特な筆致で描いた。従来の研究において、西鶴の町人物を四民平等の思想に満ち溢れる作品だと見なし、彼を庶民の代弁などと位置づけたことは多い。しかし、『永代蔵』における各階級の人々に関する描写を分析することからわかるように、西鶴は人間解放の先駆でも庶民の代弁者でもない。西鶴にとって、社会階級の順位は「国と公家、士、商、農と工、えた非人」だと言えよう。「国と公家、士」は上位であり、「商」はそれに次ぎであるが、「農と工」や「えた非人」よりずっと身分が高いと見られている。ただ、「商」はたとえどんなに富裕であっても身分の限界があり、「士」というランクに入ることはあり得ない。金銭と福を追求する庶民の活躍は、西鶴が肯定し、激励しているように見えるが、その背後には厳しく定められた社会階級制度が大前提となっている。それが、統治者の支配下に居て天下泰平の世が保たれるからこそ、町人は身分にふさわしい幸せを追求することができるわけである。西鶴は社会身分システムを全般的に肯定したのみならず、それを積極的に守ろうとしている。

このような『永代蔵』における西鶴の身分観念は一体どうやって形成したのか。また、西鶴はどのような時代背景のもとに、どのような目的で、『日本永代蔵』を書いたのか。本稿は作品における各階級の人々に関する描写により、作者の身分観念を分析する。それと同時に、作者の身分観念の形成や作品の創作意図を究明しようと思う。本稿は次の部分から構成されている。

序 論 本稿の背景と目的をはじめ、問題を提起する。また、いままでの先行研究を紹介し、本稿の研究意義および研究方法を述べる。

第一章 本稿の中心である身分観念について、中国と日本における「士農工商」思想の形成と発展を纏めて述べる。

第二章 社会各階級を「国と公家」、「士」、「農」、「工」、「商」、「えた非人」に分類し、それぞれに関するイメージを分析する。これらのイメージに潜んでいる西鶴の身分観念は到底何であろうか。それを論じる。

第三章 西鶴の身分観念をまとめ、その形成原因を分析する。そして、その背後にある作者の創作意図なども探ってみる。

結 論 西鶴は従来の四民平等を唱える人間解放の先駆でも庶民の代弁者でもなく、むしろ身分序列にかなり執着があり、それを積極的に守ろうとしている町人の一人である。彼のこのような身分観念の形成は当時の社会環境と彼自身の教育背景、性格などと深くかかわっている一方、『永代蔵』に対する創作意図とも切り離すことができない。

本稿では、以上の序論、本論の三章、結論よりなり、テキスト分析の方法を援用しながら進めて行く。

キーワード：西鶴 『日本永代蔵』 「士農工商」 身分観念



## 摘要

《日本致富宝鉴》是井原西鹤町人物语系列的第一部作品，发行于1688年。整部作品分为六卷，由30篇短篇故事构成。故事的主人公均来自于社会各个阶层，故事内容以老百姓的日常生活为背景，大多是讲述江户时代日本町人们的发家致富史或者落魄潦倒的经过。在《日本致富宝鉴》中，上至达官显贵，下至贩夫走卒，井原西鹤运用他独特的描写手法，对社会各个阶层的人群进行了惟妙惟肖的刻画。过去对于井原西鹤町人物语的研究，大多因其在作品中对庶民阶层的有血有肉的生动刻画，以及对于追求金钱和享乐行为的肯定，将西鹤定性为生活在封建时代的庶民阶层的代言人，或者是宣扬“四民平等”的民主思想先驱。但是，只要我们仔细分析《日本致富宝鉴》，就可以从西鹤对各个阶层人群的描写中看到，西鹤既不是什么民主思想先驱，也谈不上是庶民的代言人。在西鹤心中，社会等级的排序是严格按照“公卿—士—商—农工—贱民”的顺序划分的，“公卿”和“士”位于身份等级制度的最顶端，其后是“商”。“商”的地位身份位于“农工”以及“贱民”阶层之上。这里值得品味的是，虽然西鹤在众多町人物语作品中，不惜笔墨去肯定了町人阶层对金钱与幸福生活的追求，然而这些商贾出身的町人无论多么富有，在西鹤的町人故事中始终无法跨越“商”这一身份限制，与“士”的阶层平起平坐。通过西鹤作品，我们可以看到蕴藏着的根深蒂固的封建等级观念。这应该说是西鹤笔下故事得以形成的大前提。

那么，西鹤的等级观念思想是怎样形成的呢？西鹤又是在怎样的时代背景下，怀着怎样的目的创作了《日本致富宝鉴》的呢？本论文将通过分析《日本致富宝鉴》，解读西鹤对各个阶层人群的描写，深入探讨以上几个问题。本论文由以下几个部分构成。

序论 介绍本论文的研究背景、研究目的，以及至今为止的研究概况，阐述本文的研究目的及研究方法。

第一章 阐述本论文的核心思想“等级观念”。论述中日两国等级观念的形成与发展。

第二章 将《日本致富宝鉴》中的登场人物以“公卿—士—商—农工—贱民”为

标准划分，分析针对不同的社会阶层角色，作品中所呈现的不同的描写，探究文字背后所隐藏的，西鹤对于这些社会阶层所持有的态度。

第三章 总结西鹤的等级观念，分析其形成原因，探究其创作意图。

第四章 综上所述，得出以下结论。西鹤既不是所谓的民主思想先驱，也不是庶民的代言人，他是对身份等级制度抱有很深执念，并积极维护等级制度的一名町人。西鹤在《日本致富宝鉴》中所呈现的等级观念既是当时社会思想环境的产物，也源于其自身的教育背景，成长环境以及他自己的性格。同时，以《日本致富宝鉴》为开端，西鹤开始町人物语的动机和意图，也与他的这种等级观念有着千丝万缕的联系。

本文围绕序论、本论三个章节、结论三个部分，运用文本分析的方法进行论述。

**关键词：**西鹤 《日本致富宝鉴》 “士农工商” 等级观念

## 目 次

はじめに .....	1
第一章 身分観念をめぐって .....	3
1.1 中国における「士農工商」 .....	3
1.2 日本における「士農工商」 .....	5
第二章 『永代蔵』における「士農工商」に対する分析 .....	8
2.1 「国・公家」に対する分析 .....	8
2.2 「士」に対する分析 .....	11
2.3 「農」に対する分析 .....	16
2.4 「工」に対する分析 .....	18
2.5 「商」に対する分析 .....	19
2.6 「えた非人」に対する分析 .....	30
第三章 西鶴の身分観念とその形成 .....	34
3.1 『永代蔵』における西鶴の身分観念 .....	34
3.2 西鶴の身分観念の形成 .....	35
3.3 西鶴の創作意図 .....	44
終わりに .....	48
参考文献 .....	51
謝 辞 .....	53

# 目 录

序论.....	1
第一章 “等级观念”概述.....	3
1.1 中国社会中的“士农工商”.....	3
1.2 日本社会中的“士农工商”.....	5
第二章 对《日本致富宝鉴》中“士农工商”等描写的分析.....	8
2.1 对“国家·公卿”的分析.....	8
2.2 对“士”的分析.....	11
2.3 对“农”的分析.....	16
2.4 对“工”的分析.....	18
2.5 对“商”的分析.....	19
2.6 对“贱民”的分析.....	30
第三章 西鹤的等级观念及其形成.....	34
3.1 《致富宝鉴》中西鹤的等级观念.....	34
3.2 西鹤等级观念的形成.....	35
3.3 西鹤的创作意图.....	44
结论.....	48
参考文献.....	51
致辞.....	53

## はじめに

町人物は、浮世草子の中で、特に「町人の経済生活を主題とした作品である」<sup>①</sup>。近世の安定期に入ると、貨幣経済の活発とともに、経済生活の主役である町人階級が文化を担当することになったゆえ、町人が執筆し、町人の生活と感情の実態を正確に描く浮世草子が登場した。天和・貞享の頃になって、大阪町人の出身である井原西鶴と彼の作品が、日本文学は名実ともに庶民文学の時代に迎えたことを示したのである。<sup>②</sup>初期の西鶴は『好色一代男』などの一連の好色物を通じて、遊里の世界を生きる様々な人間の存在そのものと心のありようを写実的な作風で、読者に認識させたのである。しかし、これらの作品が描いた金銀の威力と極楽な生活は、町人のまぼろしい夢である。商業資本経済の進展に伴い、町人の経済生活には大きな変化が現れた——資本を有する町人はいよいよ富み栄え、無資本の町人大衆は、どのように勤勉であっても貧しい生涯をおくらねばならぬ。<sup>③</sup>この事実を目に映された西鶴は、視野を遊里にとどまることができず、より広い世界に向かい、町人のあるべき生き方、行くべき道を考えざるを得なかった。そこで誕生したのは、『日本永代蔵』である。

『日本永代蔵』は井原西鶴の町人物の第一作であり、1688年刊行されたものである。全書は6巻合計30章の短編からなり、各階級の人々の生活様相や諸国の風俗など、江戸前期の社会百態が描かれた。特に町人の立身と淪落は説話の中心となる。西鶴の町人物の初作である『日本永代蔵』は文学史において、また西鶴個人においても重要な意味を持っている。何故かといったら、まず『永代蔵』は貴族と公家からえた非人まで、社会各階級の人々を西鶴流の筆致で描いた。これは当時の社会実像を垣間見る貴重な資料となっている。また、「士農工商」という各階級の人々への描写を通して、西鶴の価値観いわば彼個人の身分観念が伺われる。周知のように、井原西鶴は江戸時代の代表的な作家であ

<sup>①</sup> 『広辞苑 第五版』[Z]. 東京：岩波書店. 1988.

<sup>②</sup> 暉峻康隆. 『西鶴』[C]. 東京：角川書店. 昭和32年、第3頁.

<sup>③</sup> 暉峻康隆. 『西鶴』[C]. 東京：角川書店. 昭和32年、第136頁.

りながら、彼の本名・出身・家系などに関する資料は極めて少ない。つまり、西鶴という人物の人物像は極めて漠然としている。筆者は『日本永代蔵』における各階級の人々に対する描写を分析することを通して、西鶴の身分観念を究明し、またそれにより、いささかなりとも西鶴の人間像を一層充実なものにしたいと思う。

さて、次に先行研究を纏めておきたい。西鶴および『日本永代蔵』に関する先行研究は数多くあるが、殆どは作品の成立、主題、表現の方法、あるいは一短編への考察などである。例えば暉峻康隆は西鶴の各作品の成立から説話の表現、および江戸前期の社会経済、西鶴の思想の受容など、あらゆる面で数多くの著作を残った。また、白倉一由の『日本永代蔵の成立』は主に作品の主題や年立などを論じている。そして、谷脇理史は『浮世の認識者 井原西鶴』の中で、西鶴の俳諧作品を通じて、彼の性格を推測し、「浮世の認識者」である西鶴の人間像を彼独特な視点で描いた。その中で、『日本永代蔵』における西鶴の身分観念を究明したものは見当たらないので、本文ではそれをテーマにして進めていきたいのである。

本文はテキスト分析の方法を利用し、『永代蔵』における各階級の人々への描写を分析することにより、西鶴の身分観念を検討しようと思う。そして、作品の創作背景や作者の創作意図などを推測することにより、西鶴の身分観念の形成を究明しようとする。

## 第一章 身分観念をめぐって

西鶴の身分観念を究明するためには、日本近世の「士農工商えた非人」からなった身分社会の状況を明らかにする必要がある。周知のように、「士農工商」は中国から伝わってきた概念を江戸幕府が活用したものである。そのゆえ、日本近世社会の「士農工商」に触れる前、まずはその源流である中国の「士農工商」概念を見てみよう。

### 1.1 中国における「士農工商」

「士農工商」は本来、春秋戦国時代における民の分類法であった。早くは『書経』、『管子』、『春秋穀梁伝』に記載されている。

まず、『書経』の「周官」の章の中に、「司空掌邦土，居四民，时地利」（司空は邦土を掌り、四民を居き、地利を時にす）とある。つまり、司空は国の土地をつかさどり、士農工商の四民の住居を定め、四季に従って地利を盛んにする、というのである<sup>④</sup>。『書経』は五経の一つとして、中国最古の歴史書とされている。また、重要な古典として尊ばれ、日本に伝わり、江戸時代の学者と知識人に愛読されていたものである。

次に、『管子』の中に「士農工商」は二回取り上げられた。一つは「乗馬」の章の「士農工商」の中に、「是故，非誠賈不得食于賈，非誠工不得食于工，非誠农不得食于农，非信士不得立于朝」<sup>⑤</sup>（是の故に誠賈に非ざれば賈に食むを得ず、誠工に非ざれば工に食むを得ず、誠農に非ざれば農に食むを得ず、信士に非ざれば朝に立つを得ず）<sup>⑥</sup>とある。ここでは、「士農工商」はそれぞれの仕事に専念し、容易に仕事を変えるべからず、ということである。

また、「小匡」の章には、「士农工商四民者，国之石（柱石）民也」とある。（士農工商の四民は国の石民なり）

<sup>④</sup> 加藤常賢、『新釈漢文大系 25 書経下』[M]. 東京：明治書院. 1983、第 497 頁.

<sup>⑤</sup> 姚晓娟 汪银峰注译.『管子』[M]. 郑州：中州出版社. 2010.

<sup>⑥</sup> 遠藤哲夫.『新釈漢文大系 42 管子上』[M]. 東京：明治書院. 1983、第 94 頁－第 95 頁.

以上の二か所は『管子』の「士農工商」に対する論述である。要するに、民は「士農工商」それぞれの職業に就くべきであり、四民とも国にとって重要な役割を果たしている、ということである。

第三、『春秋穀梁伝』の中には「古には四民有り。士民有り、商民有り、農民有り、工民有り」と書いてある。ここでは、「四民」が現れたが、それは士農工商の順ではなく、「士商農工」の順に並んでいる。

他には『史記』の『貨殖列伝』の中にも「農工商」に関する言葉が何回現れたが、ここでは枚挙しないようにする。

要するに、中国の春秋戦国時代までは「士農工商」は身分の序列というより、むしろ職業の相違として捉えられていたと推測できる。<sup>⑦</sup>

ところが、漢の時代に入ると、皇帝は重農抑商政策を取り始めたため、「士農工商」のうち、士が最上位で、農工がこれに次ぎ、商は特に賤しいとされる思想が生まれたのである。漢の高祖が重農抑商政策を行ったことは『史記』の「平準書」に記載されている。「天下已平，高祖乃令賈人不能丝衣乘车，重租税以困辱之。孝惠高后时，为天下初定，复弛商贾之律，然市井之子孙亦不得仕宦为吏。」<sup>⑧</sup>（天下己に平らかなり。高祖、乃ち賈人は衣糸乗車を得ず、租税を重くし、以て之を困辱せしむ。孝惠高後の時、天下初めて定をなす。復た商賈の律を弛む。然し、市井の子孫はまた仕官し吏となるを得ず）<sup>⑨</sup> 言い換えれば、天下が定まった後、漢の高祖は商人に絹物を着ることも、車に乗ることも禁じ、租税を重くして、商人を苦しめる。また、商人の子孫は仕官になることも禁じたのである。この後、漢の武帝は董仲舒を重用し、儒教を国教に引き上げた一方、商人の勢力を抑圧するため、一連の経済政策を実行した。それから、中国の王朝が変わっても、儒教を重んずる皇帝たちは重農抑商政策をとるという歴史が続いていたのである。<sup>⑩</sup>

<sup>⑦</sup> 植松忠博、『士農工商論における中日比較』[J]、国民経済雑誌 173(4)、1996、第 18 頁。

<sup>⑧</sup> 司马迁、『史記』[M]、北京：中華書局、2007。

<sup>⑨</sup> 吉田賢抗、『新釈漢文大系 41 史記 4』[M]、東京：明治書院、1995、第 271 頁—第 272 頁。

<sup>⑩</sup> 植松忠博、『士農工商論における中日比較』[J]、国民経済雑誌 173(4)、1996、第 20 頁。



Degree papers are in the "[Xiamen University Electronic Theses and Dissertations Database](#)". Full texts are available in the following ways:

1. If your library is a CALIS member libraries, please log on <http://etd.calis.edu.cn/> and submit requests online, or consult the interlibrary loan department in your library.
2. For users of non-CALIS member libraries, please mail to [etd@xmu.edu.cn](mailto:etd@xmu.edu.cn) for delivery details.

廈門大學博碩